

昭和 44(1969) 年 11月 25日付「日本経済新聞」に掲載された記事を、執筆者「青木美香」さんのご承諾（一部、修正あり）を得て、掲載します。

5年目の「南極ローズ」

昭和基地に後援会もできました

あおきみか
青木美香

もりだくさんな 30分

11月 25日は、オレンジエローの船体でおなじみの南極観測船“ふじ”が、第 11次観測隊員を乗せて出発する日です。

私は、それらの隊員の方々、南極基地と電波を通じてお話する仕事を 4年続けてまいりました。今年もまた、あと 20日あまりで放送が開始されます。その放送を控えて、私は今、もろもろの思いに浸っております。

南極とのお付き合いが始まったのは、昭和 40年第 7次隊を送った時からでした。極寒の地で活躍される隊員の皆さんと、故国日本をつなぐ唯一の声の掛け橋として、日本短波放送が番組を企画し、私とそのホステスに選ばれたわけでした。その放送開始の当日の事を、まだ昨日のようにはっきり思い出します。プロデューサー、ディレクターはもちろん、直接関係のない方々まで総動員して、30分の番組に異常なほどの情熱を傾け、あらゆる力を集結させたものでした。

たとえば、放送日は日曜日から土曜日までの毎日。ある日は芸能色の強いもの、またある時はスポーツ、また国内外のニュースを主にしたもの。そして、落語家、歌手、俳優、俳人、詩人の皆さんを訪問したり、スタジオに招いて対談形式にしたり、隊員、乗組員の留守家族の声（これは 4年間一貫して番組



出港時、“ふじ”艦長へ花束を贈呈する
青木美香さん

の中心になっている)を送ったり、リクエスト曲、映画紹介、ふるさとの民謡めぐりと、そのプログラムも盛りだくさんです。

その当時、私は毎日毎日が短波放送の社員のようなものでした。この番組にかかりっきりで、東京近郊の乗組員や隊員の留守宅に、ディレクターと一緒にデンスケをかついで伺い、直接その家族の声を収録しました。また、演劇ファンのために、たとえば“デン助劇場”の小屋で芝居のさわりを録音したり、師走が近づくと、その何とはない気ぜわしい雰囲気番組に入れようと、デパートの店内ミュージックと大勢の客とがかもし出す独特のムード、そして上野はアメ屋横丁、下町ふうの威勢のよい、あの客の呼び込みなどなど。ここでは、ねじりはち巻の威勢のいいお兄さんが、新巻シャケをはじめ、お歳暮、お正月用品を前にして、どなり合いの真っ最中です。

師走のムード満点だと、マイクを向ける。待ってましたとばかりに、景気のよい言葉がポンポンとび出し、絵になる！ いや使える！ と感謝したものでした。今では、このお兄さんともすっかりおなじみになって、うっかり素通り出来ない存在となりました。そして、わが家では、毎年暮れの買い物のお金は、ここで済んでしまうというお世話のなり方です。

“ 除夜の鐘をどうぞ ”

ところで、この番組は過去4年間、24時から30分、つまり昭和基地では、ちょうど夕食の6時頃という皆さんのリラックスタイムに合わせて放送してきました。

そこで、最初の年の大晦日は、雷門で有名な浅草寺の境内、留守宅、スタジオの三ヶ所を結んだ三元の生放送。

除夜の鐘を聞きながら、

「ふじ乗組員の皆さん観測隊員の皆さん、おわかりでしょうか？ ただ今聞こえているのが、皆さんの故国日本の除夜の鐘、そして希望に満ちた、さわやかな新年の訪れを祝う初詣の人々が、大勢つめかけています。では、ちょっとその感想を聞いてみましょう。」

「はい、はい、やはり、下町らしく、日本髪のお嬢さん、それにオリンピックの年だったせいか、青い目やブロンドが目につきますね！」
こんどは留守宅へ。

「そちらは今何をしていらっしゃいますか？」

「ズズル、ズズル…。何の音がわかりますか？」

「隊員の皆さん、ふじの皆さんいかがですか？ 聞こえましたか？
そうです！ 香ばしいお雑煮を食べる音なんですよ。そう言えば昭和
基地でもおもちをつかれたんですね。お味はどうですか…？ 1万8
千キロ離れて、明けましておめでとございます…。」

さっそく「感度良好」

ざっとこんな具合。誰かが言いました。美香ちゃんを見ていた方が面白い。マイクに頭を下げたり、照れたり、笑ったり…。ともかく
“恋の片道切符”ならぬ一方通行、はたして聞こえてるやら、いない
やら、不安やら、心細いやら…。でも、一番やりがいのあった、実りの
多い年でした。

放送を開始して1カ月ぐらいたった頃でしたでしょうか、「ハウソウ
タノシミニキイテイマス カンドモ リヨウコウ アリガトウ カゼ
ヲヒカナイヨウニ ガンバツテクダサイ」という年賀電報を頂きました。
寄港地のケープタウンからは、本多艦長はじめ通信長、隊員、乗
組員の方々の心のこもった寄せ書きやお手紙を頂いて、胸を熱くしま
した。

また、こんな事もありました。“越冬隊員の奥様、無事赤ちゃん出産”
のニュース。さっそく知らせなくてはと勢いこんだところ、待ったが
かかりました。よくよく聞くと出産されたのは、奥様のお姉さんだっ
たというのです。もし、結婚したばかりで昭和基地へ出発した彼が、
“赤ちゃん誕生”と知らされたらどんな事になったかと、スタッフ一
同あとで冷汗をぬぐう始末でした。

2, 3年前の石ブームでは、家族からのお土産が、一様に南極の石
という希望、おかげで石を乗せ過ぎた“ふじ”の速力が鈍ったとか鈍
らないとか。ともかく、関係者以外の方々からも、この番組を楽しみ
に聞いているというお手紙を頂いたり、ちっとやそっとでは書き尽く
せない事ばかりです。

電報で南極だよりも

ところで、この3月、「…ゴクロウサマ タノシクキイテイマス サ
テツギノゴトク アナタノコウエンカイガ ナンキヨクデ ホツソク

シマシタ...」という電報を頂きました。そしてその後、折々に届けられる4枚、5枚という長文電報で、南極機関紙の発行や、美香を守る会の発足も知らされ、この11月11日には、内陸旅行隊にも後援会支部ができ、「...ムセンツウシンデ ミカチヤンノウタヲ クルマカラクルマヘ ナガシテマス オカラダト ノドロタイセツニ アオキミカコウエンカイシブ」の便りまで頂き、感激しています。

また、「シンバングミノオシラセ オメデトウ タイインイチドウヨロコンデイマス」という電報。これは、今年の7月から放送されているNETテレビの「経済ざっくばらん」のアシスタントに決まった時に、南極から届いたものです。内地にいらっしゃる村山9次隊長はじめ南極OBの皆さんからは、「南極ローズ変じて経済ローズ」と冗談まじりの励ましのお言葉を頂きました。

「お元気ですか、ふじのみなさん」が放送される12月からは、「きょうは南極」「あすは経済」で、スイッチの切り替えにとまどいそうです。でも前にもまして一生懸命やるつもりです。また、お耳にかかりましょう。

(アナウンサー)